

匝瑳市行政改革推進委員会 会議録

日 時	令和元年10月30日(水) 午後16時～午後17時
場 所	匝瑳市役所議会棟第2委員会室
出席者	委 員：八木幸市委員、鎌形廣行委員、椎名勤委員、田邊久利委員、 須合重徳委員、齋藤光雄委員、永井哲哉委員、大木幸恵委員 市 長：太田安規市長 (事務局) 大木総務課長、菊間和彦総務課副主幹、石毛宏明総務課主査 小山田晃大総務課主任主事
市長 あいさつ	<p>本日、匝瑳市行政改革推進委員会を開催いたしましたところ、椎名委員長をはじめ、委員の皆様には、大変御多忙中にもかかわらず、御出席を頂き、誠にありがとうございます。</p> <p>また、先ほど、新たに委員の委嘱をさせていただいた皆様におかれましては、快く御承諾を頂き、御礼を申し上げます。</p> <p>さて、近年、人口減少や少子高齢化の進展など、地方自治体を取り巻く環境は大きく変化し、行財政運営は、ますます厳しさを増しております。</p> <p>こうした中、本市といたしましては、合併後の平成18年度から、匝瑳市行政改革大綱を策定し、行政改革に取り組んでまいりましたが、今後も、持続可能な行財政運営を推進していくために、このほど、第4次匝瑳市行政改革大綱(案)を取りまとめたところでございます。</p> <p>つきましては、本案につきまして、忌憚のない御意見、御審議を頂戴いたしたいと存じますので、よろしくお願い申し上げます。</p>
議 事 (要 旨)	<p>議題</p> <p>(1) 副委員長の選任について (2) 第4次匝瑳市行政改革大綱(案)について</p> <p>結果</p> <p>① 委員の互選により、副委員長に大木幸恵委員が選任された。</p>

会議録

(1) 副委員長の選任について

委員の互選により、副委員長に大木幸恵委員が選任された。

(2) 第4次匝瑳市行政改革大綱（案）について

第4次匝瑳市行政改革大綱（案）について、事務局から説明を行った。

<主な質疑及び意見>

委員A

6ページ、7ページであるが、これまでの行政改革の主な取組がある。第1次から第2次行政改革までは、職員数の削減を項目に掲げていた。第3次は職員数の削減の項目がないが、次のページでは、平成22年の総人口が39,814人で、職員が338人であるので、おおよそ120人に1人職員がいる状況である。翌年で302人となり、将来的には28,000人になる。302人の職員数がこのまま変わらないということか。

もう一つは、11ページの歳出項目の人件費についてであるが、平成27年度で24億5,900万円であり、以降この数値が減っていない。職員の削減については、第4次行政改革大綱では入らないのか。

事務局菊間副主幹

第3次行政改革大綱以降は、職員数の削減という項目としては掲載をしてこなかった経緯がある。将来的な人口としては、28,000人で100人当たりからすると多いのではないかという御指摘であると思うが、職員数の削減は、相当数行ってきた。この行政改革大綱については、令和2年度から5年度までと、長期間ではないので、この段階では現状の職員数を更に削減するとなると厳しいことから第3次行政改革大綱以降では、職員数の削減を項目として掲げていない。

委員A

職員数が最低このくらい必要というのはわからない。減っていなかったの
でどうなのかと考えた。

委員B

25ページの市民協働の推進であるが、申請として出ているのは9件、10件程度である。市民の自発的な働きをもって申請すれば、いろいろな市民本位の事業があると思う。それにもかかわらずこの行政改革大綱に掲げる推進の成果が上がってこないという認識である。市民に浸透しない、申請がない。申請がないということは、事業がないということではないと思う。市民が申請してこないというのは、何か問題があると思う。よく聞くのは、市民協働に係る補助金の関係で、市で3分の2の補助はあるが、3分の1は自己負担ということで大変な部分があると思う。負担が難しいということもあるので、そういったことも検討していかないと推進に繋がらない。規則の改正を含めて検討いただきたい。

事務局菊間副主幹

市民協働の話をいただいたが、こちらについて行政改革大綱では数値目標を掲げていないが、市の最上位計画である匠瑳市総合計画前期基本計画には数値目標を掲げている。一例を申し上げますと、現在協働によるまちづくりが推進されていると思う市民の割合、平成30年7月の調査時点であるが、24.2%である。総合計画と行政改革大綱は、令和5年度までを計画期間としているが、総合計画の数値目標としては、令和5年度までに28.5%に向上させるとしている。市民提案型事業と連携をしながら、努力していきたい。

委員B

作業部会等で検討していただければと思う。市民協働関係で中央小学校の花植え、飯高檀林の清掃などそういった事業で申請があり、児童等に対する助成もあったと聞いている。また、児童が一部を負担するのは大変だということ、自己負担分を取り払ったということも聞いている。一般の申請についても、もう少し緩和をしていくことを検討願いたい。これは、要望である。

委員G

個別実施計画であるが、年次計画では数値目標を掲げないと説明があった。やはりいずれかの方法で、何をどこまでやるかという数値が見えるような形をここに挙げないと、毎年実施することは当たり前のことであるので、どのようにというその辺を載せた方がよいのではないかと考える。

もう一つは、53ページに一般職員の給与適正化という項目があるが、年次計画の中でおそらく職員の給与との絡みが出てくると思う。そういった時に、令和5年度の中で実施になるかわからないが、どの辺で給与に影響してくるのか、掲げた方がよいのではと考えた。

最後に全体を通じて目標を建てる時に「～に努める」「～を図る」という表現は書きやすい文言であるが、あいまいな目標の達成になってしまう。「～に努める」という表現に替わる文言が全て替わることにはならないと思うが、やるならやると言い切った方がよいのではと考えた。

事務局菊間副主幹

数値目標を掲げないということであるが、少なくともどういうことをどのようにやっていくというのは表した方がよいのではないかと指摘であるが、行政改革大綱と並行して作成している財政健全化計画と数値的な目標については、重複する部分が多い状況である。そのため、数値的な目標については財政健全化計画の中で表していきたい。この後パブリックコメントを実施し広く市民の皆様から意見をいただいたり、匠瑳市議会からも意見をいただくことになっている。そのような中で同様な指摘があるかと思うので、どのように取り組んでいくのかという表現については、もう少しわかりやすい表現に変えるよう努めたい。

また、語尾のあいまいな表現についてであるが、新規項目があり、実施していない項目もあるので、そういったところについては、「～に努める」「～を図る」という表現になっているが、そうでないところについては可能な限

り統一性を図ったり、はっきりした言い回しで強調できるように調整したい。

委員E

まず、計画の中では数値目標を出さなければいけない。もともと組織というのは、目標数値や目標が設定されていないとゴールに向かって進めない。それをやるためにどうするかを決めていかないといけない。行政改革大綱と財政健全化計画で内容が被るということは理解するが、総務課としてはここまでやるという数値や取決めはあるか。

事務局菊間副主幹

2月8日に開催した行政改革推進委員会で数値目標についての御指摘をいただいたことは記憶している。それを踏まえ当初は、数値目標を掲げる方向で行政改革大綱の原案を作成した。繰り返しになるが、財政健全化計画を作成しており、財政健全化計画の内容を制限してしまうという恐れや重複する部分があることから数値目標については掲げず、行政改革大綱では方向性を掲げ、数値的なものは財政健全化計画に委ね数値を表すこととした。イメージとしては行政改革大綱と財政健全化計画をセットで一つの計画ということである。

また、経常収支比率は、現在91.7%と財政が硬直している状況である。これを令和5年度に90%以内に抑える総括的数値目標を当初は考えていたが、そういったことも数値的な目標については、財政健全化計画で掲げるということとし、行政改革大綱では方向性を示すことになった。

委員E

財政健全化計画の数値が出てから評価をする方がより無駄がないと考えるがいかがか。

事務局菊間副主幹

本日は財政健全化計画とセットで示せばよかったが、まだ財政推計も固まっていない状況であり、それに伴って目標となる数値目標も掲げられていない状況であることから今回用意できなかった。この後早急に財政部門と調整し、広く市民にホームページ等で公表しながら意見を募ると共に次回の行政改革推進委員会には数値目標が入った財政健全化計画も併せて示したい。

委員E

今日参加させていただいた名目は、行政改革ということで伺っている。そういうことが行政改革ではないか。毎回同じようなことをして、説明をしてという、これが続くことを改善することも行政改革である。そこも含めて無駄の無い進め方をお願いしたい。先ほど人員の削減の意見があったと思うが、県庁や市役所に友人が居て、その中には多数の職員が働いている。特に今回の災害では、交代で市役所に泊まって対応したことと思う。先ほどの数値を示すというのは、人数に対してどのような仕事をしているかを公表しない限りはそれが足りているのか足りていないのかわからない。数値で示すというのは、働いている人に対する仕事の内容も示せるはずである。全部やるということだけでなくともよいと思う。一番効果が出るというところをやるのも

よい。数値を出せるということが改革の第一歩になるのではないか。是非数値化を。数値がない以上は、机上で話してもよい意見は吸い寄せられないのではないか。

事務局菊間副主幹

今後広く市民の皆様から意見をいただく中で、また、財政健全化計画に制限がかからない範疇で表現を見直す等検討したい。数値目標を掲げた財政健全化計画についても、次回の行政改革推進委員会にはお示ししてまいりたい。

その他

事務局から、本日の会議でいただいた意見は、調整可能な部分は調整する旨説明を行った。

今後の大綱の策定スケジュールについて、11月にパブリックコメントを実施し、12月に匝瑳市全員協議会に行政改革大綱（案）を提出し、来年1月または2月に再度行政改革推進委員会を開催し、行政改革推進本部で行政改革大綱を決定する予定である旨説明を行った。